

函館・高橋

訪問リハビリの効果検証

達成感・満足感の認識差判明

函館市の高橋病院（高橋肇理事長・119床）の関連事務所である訪問リハビリステーションひより坂は、訪問リハビリ利用者のリハビリ効果を

満足感に対するずれがあることが分かった。各利用者のニーズに沿ったQOL改善や、家族への介護負担の軽減を行っている。

国内における訪問リハビリは歴史が浅く、また高齢者は徐々に身体機能やADLが低下していくことから、利用者・家族の主観的な評価は改善しておらず、スタッフ側と利用者との間に達成感・満足感に対する認識の違いがある」と推測し、改善のためには介入方法



利用者が自分らしい生活を送れるよう支援する

6つの評価法を用いて検証した。スタッフが客観的に判断する評価では一定の介入効果が得られており、一方、利用者・家族の主観的な評価では一

回、▼FIM▼ADLの意欲を問うVI▼生活内の移動について評価するLSA▼リハビリスタッフ

石井宏幸作業療法士は数値が改善しなかった理由について、「スタッフ側と利用者・家族との間に訪問リハビリの達成感・満足感に対する認識の違いがある」と推測し、改善のためには介入方法

もあり、先行研究で利用者への訪問リハビリの介入効果ははつきりと示されていない。

そこで介入効果を示す検証を実施。30人の利用者に、3カ月ごとに計5回、▼FIM▼ADLの意欲を問うVI▼生活内の移動について評価するLSA▼リハビリスタッフ

的に評価を行う暮らしおよび評価尺度BとZaritは数値の改善がみられなかつた。

石井宏幸作業療法士は数値が改善しなかつた理由について、「スタッフ側と利用者・家族との間に訪問リハビリの達成感・満足感に対する認識の違いがある」と推測し、改善のためには介入方法

が利用者の生活の様子を評価する暮らしぶり評価尺度A▼利用者本人が生活にどれだけ満足しているかを評価する暮らしぶり評価尺度B▼家族の介護負担度を計るZarit

itの6つを評価し、推移を検証した。

スタッフが客観的に判断するVI、LSA、暮らしぶり評価尺度Aでは有意な改善を示した。一方、利用者・家族が主観的に評価を行う暮らしおよび評価尺度BとZaritは数値の改善がみられなかつた。

家族の介護負担度を計るZaritの数値が改善しなかつたことについては、介護負担軽減に

ある

いる。

今回の結果を受けて、利用者には病気や障害の克服を中心とした従来のリハビリに留まらず、病気や障害を前向きに考えられるような心理状態への転換を促すカウンセリングや、利用者の趣味や強みに焦点を当てて目標設定を行い、希望を叶えていく支援を実施するとしている。

家族の介護負担度を計るZaritの数値が改善しなかつたことについては、介護負担軽減に

北海道医療新聞

4月24日
2023年・2459号

毎週月曜日発行
年間購読料22,000円
(前納/税込)

発行所

株式会社北海道医療新聞社
〒060-0042
札幌市中央区大通西6丁目
(北海道医師会館)
TEL 011(221)7777
www.medim.co.jp